

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-144643

(P2017-144643A)

(43) 公開日 平成29年8月24日(2017.8.24)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 4 2 D 5/00 (2006.01)	B 4 2 D 5/00	
B 4 2 D 5/04 (2006.01)	B 4 2 D 5/04	B
B 4 2 D 15/00 (2006.01)	B 4 2 D 15/00	3 O 1 A
	B 4 2 D 15/00	3 O 1 F

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2016-28492 (P2016-28492)
 (22) 出願日 平成28年2月18日 (2016.2.18)

(71) 出願人 513000296
 株式会社トライアード
 大阪府大阪市西淀川区御幣島2-18-2
 5
 (74) 代理人 100109472
 弁理士 森本 直之
 (72) 発明者 川嶋 秀樹
 大阪府大阪市都島区善源寺町2-2-8-
 3209

(54) 【発明の名称】 冊子状構造体

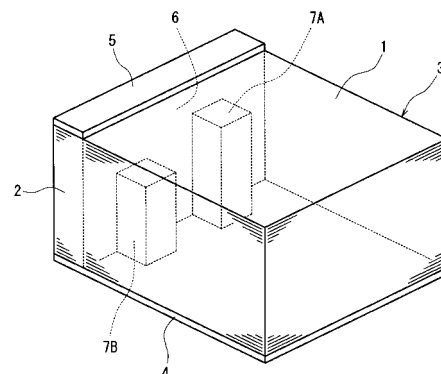
(57) 【要約】

【課題】冊子状に綴じた枚葉紙によって模様面を隠しておき、装飾や情報の出現に演出効果をもたせた冊子状構造体を提供する。

【解決手段】枚葉紙1が厚み方向に重ねられ、上記各枚葉紙1が離脱可能となるように綴じ部2が形成され、初期状態において上記重ねられた枚葉紙1に覆われて隠れており、上記枚葉紙1を順次離脱させることにより順次露呈する、模様面6が設けられている。

上記模様面6に施された装飾や情報は、初期状態では隠れていて見えない。つまり、最初は単に枚葉紙1を綴じた冊子だと認識される。そして、離脱可能に綴じられた枚葉紙1を順次離脱させていくと、隠れていた模様面6が徐々に現れ、装飾や情報が出現する。このような構成により、冊子状に綴じた枚葉紙1によって模様面6を隠しておき、装飾や情報の出現に演出効果をもたせることができる。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

枚葉紙が厚み方向に重ねられ、
上記各枚葉紙が離脱可能となるように綴じ部が形成され、
初期状態において上記重ねられた枚葉紙に覆われて隠れており、上記枚葉紙を順次離脱させることにより順次露呈する、模様面が設けられている
ことを特徴とする冊子状構造体。

【請求項 2】

上記模様面は、凹凸のある立体模様が形成されたものである
請求項 1 記載の冊子状構造体。

10

【請求項 3】

上記模様面は、上記重ねられた枚葉紙の上記綴じ部側に設けられている
請求項 1 または 2 記載の冊子状構造体。

【請求項 4】

上記枚葉紙には、
上記綴じ部を形成するための綴じ代部と、
上記綴じ代部を残して離脱される離脱部と、
上記綴じ代部と離脱部の間に、上記綴じ部側に立体模様が形成するための抜き加工部と
が設けられている

請求項 2 または 3 記載の冊子状構造体。

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、装飾効果や情報提示効果を持たせた冊子状構造体に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来から、冊子状に綴じた紙束に、装飾効果をもたせることが行われている。たとえば、ブロック状に綴じたメモ帳に各種の装飾を施したものが考案されている。このような技術に類する先行技術文献として出願人は、下記の特許文献 1～3 を把握している。

【0003】

30

特許文献 1 は、ブロック状のメモ帳の側面に図柄等を印刷したものである。

特許文献 1 には、つぎの記載がある。

[実用新案登録請求の範囲]

(1) 側面が平坦印刷面となるようにメモ用紙を柱状に重ね合わせかつ一側面を離脱可能に互いに合着するとともに一側面に広告、図柄等を印刷してなることを特徴とするメモ帳。

【0004】

特許文献 2 は、ブロック状のメモ帳の側面に立体状の装飾パターンを形成したものである。

特許文献 2 には、つぎの記載がある。

40

【0007】**[課題を解決するための手段]**

本発明は紙面の中央域から外周域にかけて装飾パターンを印刷した多数の用紙を重合し、重合した用紙を紙面と垂直ないずれかの用紙縁端で糊付け材料を用いて剥離可能に束ねた装飾物品であって、装飾物品の各非糊付け外周縁が紙面方向および用紙束厚さ方向に装飾パターンに倣う凹凸を有し、用紙を順次めくりまたは取り除いても、残余の用紙の表面から非糊付け外周縁にかけて立体状装飾パターンが浮出するようにしたものである。

【0005】

特許文献 3 は、ブロック状のメモ帳に切離し用のミシン目を入れたものである。

特許文献 3 には、つぎの記載がある。

50

〔 実用新案登録請求の範囲 〕

多数の頁を有し、立方体若しくは直方体に形成されたメモ帳であつて、一つの隅部に全頁にわたつて連通する小孔を設けて鉛筆等の筆記具立てとなし、かつ各頁の小孔の周辺には各頁の切離し用のミシン目を穿設してなる立体メモ帳。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 6 】

【 特許文献 1 】 実開昭 5 4 - 1 4 0 8 3 7 号 公 報

【 特許文献 2 】 特開 2 0 0 4 - 1 7 3 0 9 号 公 報

【 特許文献 3 】 実公昭 5 3 - 3 4 9 8 7 号 公 報

10

【 発明の開示 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 7 】

しかしながら上記各従来技術は、つぎに述べる課題があった。

【 0 0 0 8 】

上記特許文献 1 は、ブロック状のメモ帳の側面に装飾パターンを印刷したに過ぎない。メモ用紙を離脱させていくと装飾パターンは徐々に消失し、それに応じて装飾性は減じていく。メモ用紙を半分も使うと、もはや装飾物としての存在感はなくなる。

上記特許文献 2 は、ブロック状のメモ帳の側面に立体的な装飾パターンを施したものである。メモ用紙を離脱させていくと装飾パターンは徐々に消失し、それに応じて装飾性は減じていく。メモ用紙を半分も使うと、もはや装飾物としての存在感はなくなる。

20

【 0 0 0 9 】

上記特許文献 1 も特許文献 2 も、新しいうちは装飾品として機能するものの、使っていくうちに装飾効果はなくなり、最後まで使い切らないうちに捨てられているのが実情である。ひらたく言えば、最初は物珍しさがあるけれど、すぐに飽きられて捨てられる程度のものである。つまり装飾の演出という面において芸がない。紙資源も大いに無駄にしている。

【 0 0 1 0 】

上記特許文献 3 は、ブロック状のメモ帳を鉛筆立てとして機能させ、各頁の切離しを容易にしたものであって、装飾や演出の機能はない。

30

【 0 0 1 1 】

本発明は、上記課題を解決するため、つぎの目的をもってなされた。

冊子状に綴じた枚葉紙によって模様面を隠しておき、装飾や情報の出現に演出効果をもたせた冊子状構造体を提供する。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 2 】

上記の目的を達成するため、請求項 1 の冊子状構造体は、つぎの構成を採用した。

枚葉紙が厚み方向に重ねられ、

上記各枚葉紙が離脱可能となるように綴じ部が形成され、

初期状態において上記重ねられた枚葉紙に覆われて隠れており、上記枚葉紙を順次離脱させることにより順次露呈する、模様面が設けられている。

40

【 0 0 1 3 】

請求項 2 の冊子状構造体は、請求項 1 記載の構成に加え、つぎの構成を採用した。

上記模様面は、凹凸のある立体模様が形成されたものである。

【 0 0 1 4 】

請求項 3 の冊子状構造体は、請求項 1 または 2 記載の構成に加え、つぎの構成を採用した。

上記模様面は、上記重ねられた枚葉紙の上記綴じ部側に設けられている。

【 0 0 1 5 】

請求項 4 の冊子状構造体は、請求項 2 または 3 記載の構成に加え、つぎの構成を採用し

50

た。

上記枚葉紙には、

上記綴じ部を形成するための綴じ代部と、

上記綴じ代部を残して離脱される離脱部と、

上記綴じ代部と離脱部の間に、上記綴じ部側に立体模様を形成するための抜き加工部とが設けられている。

【発明の効果】

【0016】

請求項1の冊子状構造体は、枚葉紙が厚み方向に重ねられ、上記各枚葉紙が離脱可能となるように綴じ部が形成され、さらに模様面が設けられている。上記模様面は、初期状態において上記重ねられた枚葉紙に覆われて隠れており、上記枚葉紙を順次離脱させることにより順次露呈する。

10

上記模様面に施された装飾や情報は、初期状態では隠れていて見えない。つまり、最初は単に枚葉紙を綴じた冊子だと認識される。そして、離脱可能に綴じられた枚葉紙を順次離脱させていくと、隠れていた模様面が徐々に現れ、装飾や情報が出現する。このような構成により、冊子状に綴じた枚葉紙によって模様面を隠しておき、装飾や情報の出現に演出効果をもたせることができる。

【0017】

請求項2の冊子状構造体は、上記模様面は、凹凸のある立体模様が形成されたものである。

20

枚葉紙を順次離脱させていくことにより、隠れていた立体模様が徐々に現れる。たとえば、枚葉紙を分厚く重ねてブロック状にした冊子では、初期状態で単なる直方体や立方体だったものが、枚葉紙を順次離脱させると立体模様が現れ、極めて演出効果が高い。

【0018】

請求項3の冊子状構造体は、上記模様面は、上記重ねられた枚葉紙の上記綴じ部側に設けられている。

枚葉紙を順次離脱させていくことにより、綴じ部側に徐々に模様が現れる。したがって、枚葉紙を離脱させた残骸として綴じ部が残ったとしても、そこに模様が現れ、装飾効果があって見苦しくない。

【0019】

30

請求項4の冊子状構造体は、上記枚葉紙には、上記綴じ部を形成するための綴じ代部と、上記綴じ代部を残して離脱される離脱部とが設けられている。さらに上記枚葉紙には、上記綴じ代部と離脱部の間に、上記綴じ部側に立体模様を形成するための抜き加工部が設けられている。

離脱部を離脱させると、綴じ代部が重なった状態で綴じ部が残る。この綴じ部は、厚み方向に重なる各綴じ代部において、抜き加工部の形状や寸法が少しずつ変化することにより立体模様が形成されたものとなる。このような多層状の立体模様が徐々に現れ、極めて演出効果が高い。

【図面の簡単な説明】

【0020】

40

【図1】本発明の第1実施形態における冊子状構造体を示す斜視図である。

【図2】上記第1実施形態に用いる枚葉紙の一例を示す図である。

【図3】上記第1実施形態に用いる枚葉紙の積層構造を説明する図である。

【図4】上記第1実施形態の初期状態を示す図である。

【図5】上記第1実施形態の使用途中の状態を説明する図である。

【図6】上記第1実施形態の使用後の状態を説明する図である。

【図7】第2実施形態の冊子状構造体を示す図である。

【図8】第3実施形態の冊子状構造体を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0021】

50

以下、本発明の冊子状構造体の実施の形態について詳細に説明する。

【0022】

〔第1実施形態〕

図1は第1実施形態を示す斜視図である。

この冊子状構造体は、枚葉紙1が厚み方向に重ねられて紙束3が形成されている。この紙束3には、上記各枚葉紙1が離脱可能となるように綴じ部2が形成されている。

【0023】

この例では、上記枚葉紙1は、おなじ大きさの長方形に裁断されている。この枚葉紙1が厚み方向に重ねられ、ブロック状の紙束3が形成されている。上記紙束3の一辺側に、綴じ部2が形成されている。

10

【0024】

上記紙束3は、基台プレート4の上に載置され固定されている。上記基台プレート4は、上記枚葉紙1と平面視でほぼ同じ大きさ形状に形成されている。上記綴じ部2の上には、幅方向に延びる帯状の補強プレート5が取り付けられている。上記綴じ部2では、紙束3の積層方向に貫通する綴じ孔（図示していない）が穿設され、ステッチなどで綴じることができる。綴じ孔を設けずに糊などで綴じてもよい。

【0025】

上記重ねられた枚葉紙1の上記綴じ部2側には、模様面6が設けられている。上記模様面6は、初期状態において上記重ねられた枚葉紙1に覆われて隠れており、上記枚葉紙1を順次離脱させることにより順次露呈する。上記枚葉紙1は、上記模様面6を境にして離脱可能に形成されている。

20

【0026】

この例では、上記模様面6は、凹凸のある立体模様が形成されたものである。図示した例では、上記模様面6に立体模様として、比較的背の高い直方体状を呈する第1突部7Aと、比較的背の低い直方体状を呈する第2突部7Bが形成されている。

【0027】

〔枚葉紙〕

図2は、上述した冊子状構造体に用いる枚葉紙1の一例である。

この例では、パターン（A）（B）（C）の3種類の枚葉紙1を積層して紙束3とし、綴じ部2を形成する。

30

【0028】

上記枚葉紙1には、綴じ代部8と離脱部9と抜き加工部10が設けられている。

【0029】

上記綴じ代部8は、上記綴じ部2を形成するための部分である。この例では、長方形の枚葉紙1の一辺に沿った帯状の領域が綴じ代部8である。枚葉紙1を積層した紙束3では、この綴じ代部8を利用してステッチや糊などで各枚葉紙1を綴じることが行われる。

【0030】

上記離脱部9は、上記綴じ代部8を残して離脱される部分である。この冊子上構造体がたとえばメモ帳であれば、メモ書きをした離脱部9を離脱させることができる。この冊子上構造体がたとえばカレンダーであれば、過ぎた日程の離脱部9を離脱させることができる。

40

【0031】

上記抜き加工部10は、上記綴じ代部8と離脱部9の間に形成されたスリット状の貫通部である。綴じ代部8と離脱部9のあいだには、上記抜き加工部10によって貫通しない部分、つまり綴じ代部8と離脱部9が連結した連結部11が設けられている。この例では上記連結部11は、綴じ代部8の両サイド寄りの部分に一箇所ずつ、合計2箇所設けられている。上記離脱部9を離脱させるときは、上記連結部11を破断することにより、綴じ代部8を残して離脱部9を離脱させることができる。

【0032】

上記枚葉紙1を積層した紙束3の状態では、綴じ代部8が積層さ

50

れた状態に残る。このときもともと離脱部 9 があつたところに現れる面が模様面 6 である。つまり上記模様面 6 は、抜き加工部 10 によって形成された綴じ代部 8 の端縁が積み重なることにより形成される面である。したがって、抜き加工部 10 をさまざまな屈曲形状に貫くことにより、上記模様面 6 には凹凸のある立体模様が形成されることになる。

【0033】

上記抜き加工部 10 により、上記綴じ部 2 側に立体模様が形成される。パターン (B) の枚葉紙 1 では、上記 2 つの連結部 11 に挟まれた部分において、図示の右よりの部分に、抜き加工部 10 の第 1 屈曲部 12 A が設けられている。パターン (C) の枚葉紙 1 では、上記 2 つの連結部 11 に挟まれた部分において、図示の右よりの部分に、抜き加工部 10 の第 1 屈曲部 12 A が設けられ、図示の左よりの部分に、抜き加工部 10 の第 2 屈曲部 12 B が設けられている。パターン (A) の枚葉紙 1 では、抜き加工部 10 に屈曲部は設けられていない。

10

【0034】

図 3 は、上記パターン (A) (B) (C) の枚葉紙 1 の積層構造を説明する図である。

【0035】

この例では基台プレート 4 側から、パターン (C) の枚葉紙 1 が積層され、ついでパターン (B) の枚葉紙 1 が積層され、さらにパターン (A) の枚葉紙 1 が積層されている。

【0036】

パターン (A) の枚葉紙 1 が積層された部分では、上記模様面 6 に立体模様は形成されない。パターン (B) の枚葉紙 1 が積層された部分では、上記模様面 6 に、第 1 突部 7 A の上部が形成される。パターン (C) の枚葉紙 1 が積層された部分では、上記模様面 6 に、第 1 突部 7 A の下部と、第 2 突部 7 B が形成される。このように、第 1 突部 7 A と第 2 突部 7 B を有する立体模様が形成される。

20

【0037】

〔使用状態〕

図 4、図 5、図 6 は、上記第 1 実施形態の使用状態を説明する図である。

【0038】

図 4 は、上記冊子状構造物の初期状態を示す。

この状態では、基台プレート 4 の上に紙束 3 が載置されている。上記紙束 3 は、多数の枚葉紙 1 が積層され、一辺に沿った部分に帯状の綴じ部 2 が設けられている。上記綴じ部 2 の上には補強プレート 5 が取り付けられている。上記各枚葉紙 1 のうち綴じ部 2 以外の部分が離脱部 9 である。この状態で冊子状構造物は、全体として略直方体のブロック状を呈している。

30

【0039】

図 5 は、上記冊子状構造物の使用途中の状態を示す。

上述した初期状態から、枚葉紙 1 の離脱部 9 を順次離脱させる。離脱部 9 を離脱させるときは、上記綴じ代部 8 と離脱部 9 の間に設けられた 2 箇所の連結部 11 を破断する。そうすると綴じ代部 8 が残る。離脱部 9 を順次離脱させると、綴じ代部 8 が積層された状態に残る。もともと離脱部 9 があつたところに、綴じ代部 8 が積層された模様面 6 が現れる。

40

【0040】

図示した例は、積層された枚葉紙 1 のうち 6 割程度の離脱部 9 を離脱させた状態である。上記模様面 6 には凹凸状の立体模様として、第 1 屈曲部 12 A が積層されてできる第 1 突部 7 A と、第 2 屈曲部 12 B が積層されてできる第 2 突部 7 B が現れている。

【0041】

図 6 は、上記冊子状構造物の使用後の状態を示す。

すべての枚葉紙 1 の離脱部 9 が離脱されている。上記模様面 6 には凹凸状の立体模様として、第 1 屈曲部 12 A が積層されてできた第 1 突部 7 A と、第 2 屈曲部 12 B が積層されてできた第 2 突部 7 B が形成されている。

【0042】

50

〔第 1 実施形態の効果〕

本実施形態は、枚葉紙 1 が厚み方向に重ねられ、上記各枚葉紙 1 が離脱可能となるように綴じ部 2 が形成され、さらに模様面 6 が設けられている。上記模様面 6 は、初期状態において上記重ねられた枚葉紙 1 に覆われて隠れており、上記枚葉紙 1 を順次離脱させることにより順次露呈する。

上記模様面 6 に施された装飾や情報は、初期状態では隠れていて見えない。つまり、最初は単に枚葉紙 1 を綴じた冊子だと認識される。そして、離脱可能に綴じられた枚葉紙 1 を順次離脱させていくと、隠れていた模様面 6 が徐々に現れ、装飾や情報が出現する。このような構成により、冊子状に綴じた枚葉紙 1 によって模様面 6 を隠しておき、装飾や情報の出現に演出効果をもたせることができる。

10

【0043】

本実施形態は、上記模様面 6 は、凹凸のある立体模様が形成されたものである。

枚葉紙 1 を順次離脱させていくことにより、隠れていた立体模様が徐々に現れる。たとえば、枚葉紙 1 を分厚く重ねてブロック状にした冊子では、初期状態で単なる直方体や立方体だったものが、枚葉紙 1 を順次離脱させると立体模様が現れ、極めて演出効果が高い。

【0044】

本実施形態は、上記模様面 6 は、上記重ねられた枚葉紙 1 の上記綴じ部 2 側に設けられている。

枚葉紙 1 を順次離脱させていくことにより、綴じ部 2 側に徐々に模様が現れる。したがって、枚葉紙 1 を離脱させた残骸として綴じ部 2 が残ったとしても、そこに模様が現れ、装飾効果があって見苦しくない。

20

【0045】

本実施形態は、上記枚葉紙 1 には、上記綴じ部 2 を形成するための綴じ代部 8 と、上記綴じ代部 8 を残して離脱される離脱部 9 とが設けられている。さらに上記枚葉紙 1 には、上記綴じ代部 8 と離脱部 9 の間に、上記綴じ部 2 側に立体模様に形成するための抜き加工部 10 が設けられている。

離脱部 9 を離脱させると、綴じ代部 9 が重なった状態で綴じ部 2 が残る。この綴じ部 2 は、厚み方向に重なる各綴じ代部 8 において、抜き加工部 10 の形状や寸法が少しずつ変化することにより立体模様が形成されたものとなる。このような多層状の立体模様が徐々に現れ、極めて演出効果が高い。

30

【0046】

〔第 2 実施形態〕

図 7 は、第 2 実施形態を示す。

この例は、凹凸のある立体模様が形成された模様面 6 を有する背側部材 13 をプラスチック成形で形成している。枚葉紙 1 は、ブロック状に積層されて紙束 3 を形成している。上記紙束 3 の模様面 6 に対面する部分は、立体模様の凹凸に沿う凹凸が形成されている。つまり、模様面 6 の凹凸と紙束 3 の凹凸は、型と成形品のような反転状の關係に形づくられている。

【0047】

模様面 6 の凹凸と紙束 3 の凹凸を対面させて合わせた状態で、左右の 2 箇所が綴じ糊 14 で接着されている。上記綴じ糊 14 は、左右の 2 箇所で枚葉紙 1 の積層方向の全部にわたって塗布されている。これにより、紙束 3 を構成する各枚葉紙 1 が綴じられている。つまりこの例では綴じ糊 14 が綴じ部 2 を構成している。この例では枚葉紙 1 の全体が離脱部 9 である。離脱部 9 を離脱させていくと、背側部材 13 に形成された模様面 6 が現れる。

40

【0048】

それ以外は、上記第 1 実施形態と同様であり、同様の作用効果を奏する。

【0049】

なお、この例において、背側部材 13 は、プラスチック成形に限らず、木材の削り出し

50

や紙箱から形成してもよい。模様面 6 は、凹凸のある立体模様に限らず、平面に印刷などで模様を施したものでよい。

【 0 0 5 0 】

〔 第 3 実施形態 〕

図 8 は、第 3 実施形態を示す。

この例は、背側部材 1 3 をプラスチック成形で形成している。模様面 6 は、凹凸のある立体模様ではなく、平面に印刷などで模様を施したものである。枚葉紙 1 は、ブロック状に積層されて紙束 3 を形成している。上記紙束 3 の模様面 6 側に位置する一辺に沿った部分に綴じ部 2 が形成されている。上記綴じ部 2 は、易剥離性の粘着剤で各枚葉紙 1 同士を粘着させることにより形成されている。この例では枚葉紙 1 の全体が離脱部 9 である。粘着部から枚葉紙 1 を剥離して離脱させる。離脱部 9 を離脱させていくと、背側部材 1 3 に形成された模様面 6 が現れる。

10

【 0 0 5 1 】

それ以外は、上記第 1 実施形態と同様であり、同様の作用効果を奏する。

【 0 0 5 2 】

なお、この例において、背側部材 1 3 は、プラスチック成形に限らず、木材の削り出しや紙箱から形成してもよい。模様面 6 は、平面に印刷などで模様を施したものに限らず、凹凸のある立体模様を施したものでよい。この場合には、上記紙束 3 の模様面 6 に対面する部分は、立体模様の凹凸に沿う凹凸を形成する。つまり、模様面 6 の凹凸と紙束 3 の凹凸は、型と成形品のような反転状の關係に形づくる。

20

【 0 0 5 3 】

〔 変形例 〕

以上は本発明の特に好ましい実施形態について説明したが、本発明は図示の実施形態に限定する趣旨ではない。本発明は、各種の態様に変形して実施することができ、各種の変形例を包含する趣旨である。

【 符号の説明 】

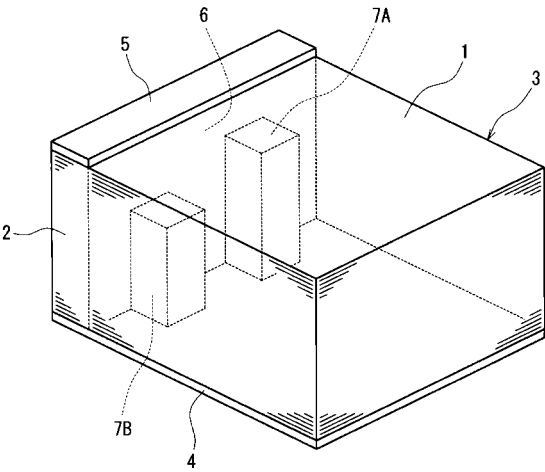
【 0 0 5 4 】

- 1 : 枚葉紙
- 2 : 綴じ部
- 3 : 紙束
- 4 : 基台プレート
- 5 : 補強プレート
- 6 : 模様面
- 7 A : 第 1 突部
- 7 B : 第 2 突部
- 8 : 綴じ代部
- 9 : 離脱部
- 1 0 : 抜き加工部
- 1 1 : 連結部
- 1 2 A : 第 1 屈曲部
- 1 2 B : 第 2 屈曲部
- 1 3 : 背側部材
- 1 4 : 綴じ糊

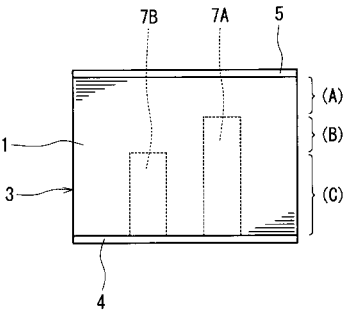
30

40

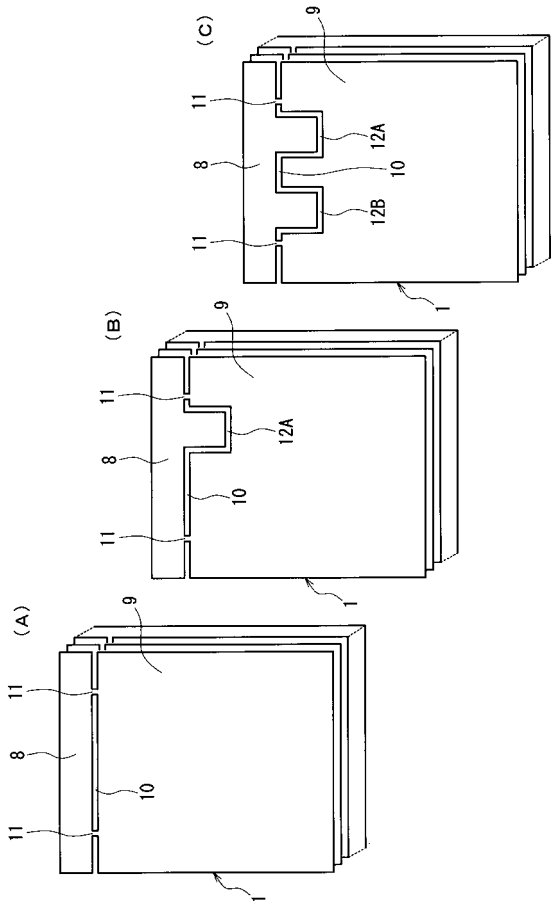
【図 1】



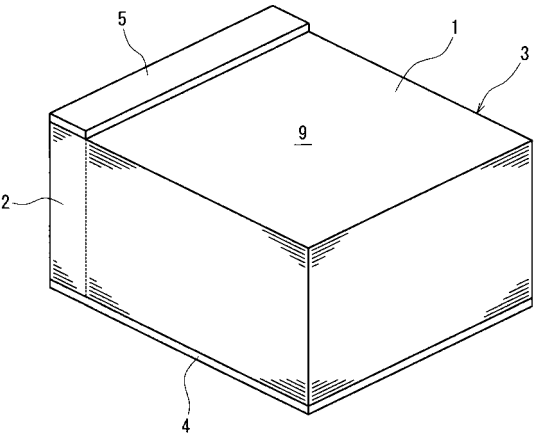
【図 3】



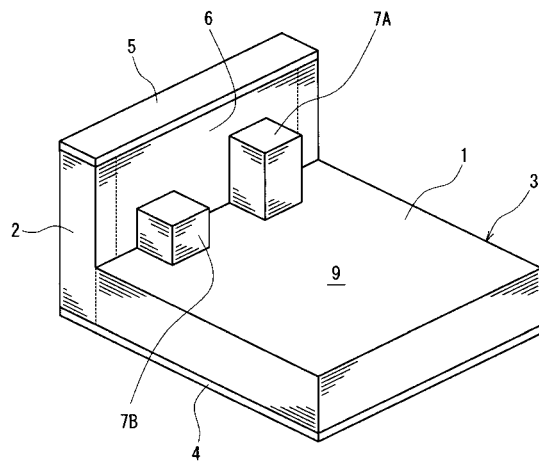
【図 2】



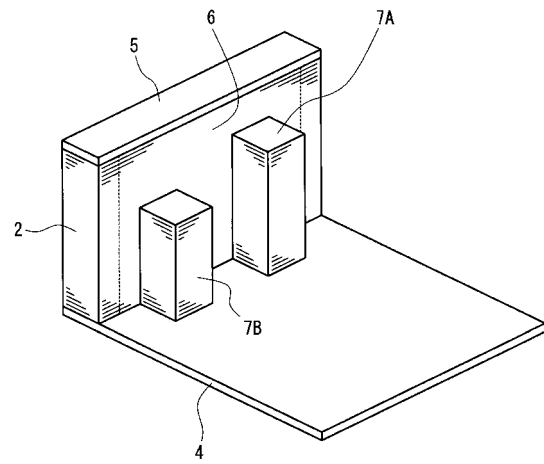
【図 4】



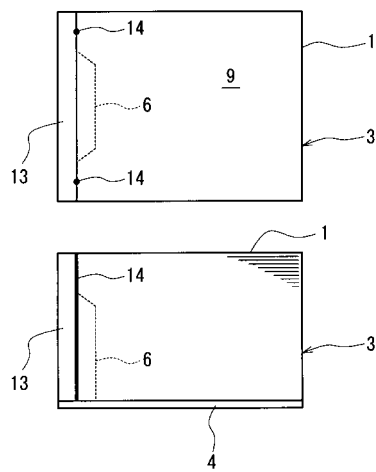
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

